

TOKYO WONDER SITE On Site Labo

トーキョーワンダーサイトでは開館以来、美術における若手芸術家支援とともに現代音楽シーンで活躍する演奏家や作曲家を紹介してきました。2005年も現代音楽から世界の民族音楽、広く私たちの今に生きる音を探していきます。演奏家の息が聞こえるほど親密な空間のなかで、広大な音の世界にふれてみませんか。

music vol.03

ピート・ヴァン・ボックスタル(オーボエ)&大宅裕(ピアノ) デュオリサイタル



a junction of west and east in great harmony...
豊かなハーモニーの東西(ヨーロッパとアジア)のジャンクションハーモニー

a late-night 'preamble' at the lake with oboist piet van bockstal and pianist yutaka oya...
a poetic exploration of the rich multi-layered softness of the contemporary oboe combined with the japanese piano-avantgarde...

オーボエのピート・ヴァン・ボックスタルとピアノの大宅裕が湖上に誘う夜更けのプレリュード...
オーボエ現代音楽と日本発ピアノ・アバンギャルドが織りなすロマンティックで深い静寂の詩的"響宴"

ベルギーを中心に活躍する大宅裕(ピアノ)とピート・ヴァン・ボックスタル(オーボエ)の共演。
数々の国際的アンサンブルとの共演を果たす二人が、音楽における東西のジャンクション・ハーモニーを奏でます。世界初演の2曲を含めた全8曲のステージをお楽しみ下さい。

PROGRAM

- ステファン・ヴァン・エイケン (1975-)
- ファランギス・ヌラ・コージャ (1972-)
- キーヨン・チョン (1971-)

トゥワイルイト エンクロージャーズ (2001)
アレオラ (2001)
モノドラマ第二番 (2005 デュオ委嘱新作 世界初演)

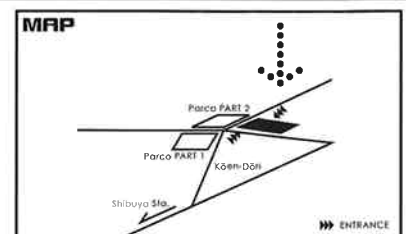
休憩

- 武満徹 (1930-1996)
- 湯浅譲二 (1929-)
- ハインツ・ホリガー (1939-)
- ジョン・パルマー (1959-)
- 原田敬子 (1968-)

遮られない休息 第一番 ゆっくりと悲しく、語りかけるように (1952)
内触覚的宇宙 (1957)
多重音のためのスタディ (1971)
湖から (2005 デュオ委嘱新作 世界初演)
ムーン・リード (2001 デュオ委嘱作品)

2005年7月1日 [金] 午後7時～
(開場: 6時30分)

会場 : TOKYO WONDER SITE
SHIBUYA
定員 : 60名
入場料 : 3000円



1-19-8 JINNAN SHIBUYA
03-3463-0603

定員になり次第締め切らせていただきますので、お早めにお申し込み下さい。ファックスの場合は裏面のお申し込み欄にご記入下さい。

主催: トーキョーワンダーサイト

スピーカー提供: クリエイティブ・リビング (0551-20-7050)

音響: 響き工芸

PROFILE

大宅 裕 Yutaka Oya

1965年生まれ。桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業、卒業演奏会に出演。多喜晴美、山内哲、松浦豊明、林秀光の各氏に師事する。全日本学生音楽コンクール中学校の部全国第一位に入賞する。卒業後、ベルギーに留学。ベルギー王立アントワープ音楽院にてピアノをロバール・グローロ氏、また室内楽をテオ・メルテンス氏に師事する。ピアノの最高学位ならびに室内楽のプリエ・プリをグランドディスティンク賞にて卒業する。その後、王立リエージュ音楽院にてジャン・ピエール・ブヴィオン氏に師事し、特に現代音楽の研鑽を積む。室内楽の最高学位をグランドディスティンク賞にて卒業する。これまでソリストとして、アルス・ムジカ音楽祭、フランダース国際フェスティバル等を含め、ヨーロッパ各地でリサイタルを行っている。室内楽の領域では、プロメテウスアンサンブル、アンサンブル・ムジクスヴェール、イクトゥスアンサンブル、カンマーアンサンブル・ノイエムジックベルリン等と共演している。現在アンサンブル・シャンダクション、エポニートリオ、アンサンブルアピスの各メンバーである。

ピート・ヴァン・ボックスタル Piet Van Bockstal

1963年生まれ。ブリュッセル王立音楽院にてポール・ドンブレヒト氏に師事する。オーボエ、イングリッシュホルン、室内楽等のプリエ・プリを得た後、オーボエの最高学位をグランドディスティンク賞にて卒業する。この間、ハンス・イェルク・シェンベルガー及びジョン・アンダーソンの両氏にも師事する。テヌートコンクール、オルフェウス国際現代音楽コンクール 並びにトロンプコンクールに入賞する。またベルギーの最も優れた若手芸術家に贈られるCERA賞を受賞した。1985年より現在まで王立フランダースフィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を勤めている。ソリストとしては、世界各地でコンサート活動をし、これまでにベルギー国立管弦楽団、ベルギー放送フィルハーモニー管弦楽団、フィアミンギ室内管弦楽団、オランダ国立ブラバンド管弦楽団、サンレモ交響楽団等と共演し、計五十曲を超える協奏曲をレパートリーにしている。また室内楽奏者としては、イクトゥスアンサンブル、アルカーネ木管五重奏団等の各正メンバーとして、またリンゼイ、アルディッティ、ダネル等の世界的に著名な弦楽四重奏団と共演している。

キーヨン・チョン Kee-Yong Chong

キーヨン・チョンは1971年にマレーシアのクラン・ジョホールに生まれる。彼は、クララ・ブルームの舞台芸術インスティテュートで作曲を専攻したのち、中国の西安音楽院及びベルギーのブリュッセル音楽院で学ぶ。彼はこれまでに、ダーロン・ツァン、ユン・ヤン・ラオ、ヤン・ヴァン・ランデグム及びダニエル・カベレティに作曲を師事する。またブライアン・ファニーホフ、ダニー・マナク、ゾルタン・ジャネイ、ペーター・エドヴェジウ、サルヴァトール・シャリーノ、アンリ・ブスール、ジェラルド・ブローフィア、フェリザート・レラーならびにネトラ・フルナンドのマスタークラスを受講する。彼は、これまでに1999年と2003年の「マルセル・ハスティール賞」(ベルギー) 2000年第18回トリッリCOMS作曲コンクール第一位(イタリア) 第八回ザルツブルク・モーツァルト国際コンクール第二位と特別賞(オーストリア) 2002年 第四回 アンジェイ・バヌフニク国際作曲コンクール 第一位(ポーランド) 2003年 第二回ソウル国際作曲コンクール大賞(韓国) 2003年 マックス・レーガー国際作曲コンクール第一位(ドイツ) マレーシア作曲家のためのMPOフォーラム 2002-2004入賞 そしてMPO 国際作曲賞第一位(マレーシア)等で栄誉に輝いている。彼の作品はこれまでに多くのヨーロッパ、アメリカそしてアジアのアンサンブル、オーケストラ、フェスティバルや器楽奏者ソリストたちに委嘱演奏されている。これからの世界初演予定としては トリアツパーカッション・トリオのための新(2005)、シュベリウス・カルテットのための弦楽四重奏曲第三番(2006)ならびにマレーシアフィルハーモニーオーケストラのための2作品(韓国) 2005と2006)が含まれている。2005年から2006年にわたってマレーシアフィルハーモニーオーケストラのコンポーザー・インレジデンスに選ばれている。

ステファン・ヴァン・エイケン Stefan Van Eycken

1975年生まれルーヴァン大学で音楽学を学び、エジンバラ大学の夏期講習にて英文学の講座を修め、1997年アヴィニョンにてマルコ・ストロパに作曲を学ぶ。その後エジンバラ大学に戻り、音楽専攻博士課程にブライアン・ファニーホフの作品に関する研究にて在籍する。またこの間、同大学で現代音楽に関するアナリゼ及び美学の講師を勤める。2000年10月、国際交流基金の1年間のフェロシップを得て、国立音楽大学に在籍し、日本の主要な現代作曲家に関する書籍の執筆を行う。その後日本に引き続き在任し、即興音楽シーン及び進業のような日本伝統音楽の演奏家と密接に交流する。またベルギーにて、イクトゥスアンサンブルのフェロシップコンポーザーとして活動する。

ジョン・パルマー John Palmer

ジョン・パルマー(1959年生れ)は、スイス、ルツェルン音楽院のピアノ専攻を卒業し、ヴィンコ・グロバールとエディン・ドニツフに作曲を師事する。その後、ロンドン大学トリニティ・カレッジで作曲を専攻し作曲の博士課程を取得する。彼は国際的なバックグラウンドを持った作曲家である。80年代半ばに作曲を始め、ピアニストとして活動し、幾つかの実験音楽やジャズのアンサンブルを主宰する。80年代からかれは器楽作品、オーケストラ作品、声楽曲そして室内楽作品に取り組み、90年代初頭から電気音楽を使った創作活動に分野を広げる。彼の作品のいくつかは Mnemosyne, Electroshock, Sargasso and Living というレーベルに録音されている。彼の作品はヴィンセント(1991)、ブルージュ(1994)、ロンドン(1995)、クラゲンフェルト(1996)、東京(1996)等で入賞、入選している。

湯浅譲二 Joji Yuasa

1929年福島県郡山市生まれ。少年期より音楽活動に興味をもち、49年慶応大学医学部教員課程に入学。在学中より秋山邦晴、武満 徹らと親交を結び、51年「実験工房」に参加、作曲に専念する。以来、オーケストラ、室内楽、合唱、劇場用音楽、インターメディア、電子音楽、コンピュータ音楽など、幅広い作曲活動を行っており、国内はもとより、世界の主要オーケストラ、フェスティバルなどから多数の委嘱を受けている。これまでにニューヨークのジャパン・ソサエティ、D.A.A.Dのベルリン芸術家計画、シドニーのニュー・サウス・ウェールズ音楽院、トロント大学など世界各国から招聘を受け、また、ハワイにおける今世紀の芸術祭、香港のアジア作曲家会議、英国文化振興会主催の現代音楽巡回演奏会、アムステルダムの作曲家講習会などに、ゲスト作曲家、講師として参加するなど、国際的に活動している。81年からカリフォルニア大学サンディエゴ校教授(現在名誉教授)を務め、現在日本大学芸術学部教授、東京音楽大学客員教授を務めている。1997年「ヴァイオリン協奏曲」により第2回サントリー音楽賞を受賞。1998年より武満徹の後任として、「サントリーホール国際作曲委嘱シリーズ」のアーティスト・ディレクターを務めている。

ハインツ・ホリガー Heinz Holliger

ハインツ・ホリガーはスイス・ベルン州のランゲンタールで1932年5月21日に生まれる。中学生の頃からすでにベルン音楽院にてエミール・カサグナウトにオーボエを師事し、またシャンドール・ヴェレシユに作曲を師事する。その後、1958年よりパリにてピアノをイヴォンヌ・ルフェール、オーボエをピエール・ピエロに師事する。1961年から63年の間、作曲をピエール・ブレーズに師事する。1959年から63年の間、バーゼルオーケストラ協会のソロオーボエを担当する。その間にジュネーブ国際コンクール第一位(1959)やミュンヘン国際コンクール第一位(1961)に輝き、1961年から世界的なソリストとしての演奏並びに録音活動を活発に開始する。彼のディスクは数多く重要な賞を得る。また、おびただしい数の埋もれたオーボエのための作品が彼によって発掘された。その一方で、ペリオ、カーター、フランク・マルタン、ハンツェ、ルトスワフスキー、シュトックハウゼン、イサ・コンといった現代の著名な作曲家が彼に曲を捧げている。彼は作曲家ならびに指揮者としても世界的に等しく名声を博しており、数々の主要な賞を授けられている。シーズン1993/94 スイスロマンダ交響楽団、1998年、ルツェルン音楽祭の各コンポーザー・インレジデンスに選ばれ、1998年チューリッヒ大学の名誉博士号を授けられる。彼の作品はあらゆるタイプのオーケストラ、独奏、および室内楽等の器楽作品やステージ作品、そのほか多数の声楽曲作品までのすべてのジャンルを包含する。オーボエ奏者としては、彼の豊富な技術的専門知識を使用し、他の作曲家がオーボエの可能性を検証するような方法で奏法の変更及び拡張を進めていった。彼の作品は、ヘルダーリン、トラークルやツェラン等の詩から多くのインスピレーションを受けている。

原田敬子 Keiko Harada

桐朋学園大学で作曲、ピアノ、指揮、室内楽を学び、'93年に同研究科修了。作曲を川井孝、三善晃、Brian Ferneyhough に、ピアノを坂弘子、間宮芳生の各氏に師事。日本音楽コンクール1位、芥川作曲賞、中島健蔵賞など受賞多数。また世界の主要な音楽祭、現代音楽アンサンブルや国際的演奏家により委嘱を受けている。国際交流基金、野村国際文化財団、朝日新聞文化財団、ロックフェラー財団(ACC)他の助成により欧米豪州などで作品を発表。近年は映画、演劇、ダンス、日本の伝統芸術などのコラボレーションも活発に行っている。'93年より桐朋学園大学講師にて後進の指導にあたるほか、静岡音楽館(AO)でも講師を務めている。

武満徹 Toru Takemitsu

1930年東京生まれ、ほとんど独学で作曲を学ぶ。「新作曲派グループ」所属の後、1951年、鈴木博義、湯浅譲二、秋山邦晴らと「実験工房」を結成。「ヴォーカリズム・カリグラフィ」等の実験的な作品を発表する傍ら、海外の音楽を日本に紹介する。57年、東京交響楽団委嘱による「弦楽のためのレクイエム」は欧米各地で演奏され、日本の現代音楽の代表的作曲家として認められる。尾高實、日本芸術院賞、モービル音楽賞、朝日賞、京都音楽大賞、飛騨吉川国際音楽祭音楽大賞、毎日芸術賞、東京都民栄誉賞、サントリー音楽賞、NHK放送文化賞、文化庁芸術祭賞、フランス芸術文化勲章、国際モリス・ラヴェル賞、ロサンゼルス映画音楽保存協会功労賞、グレン・グールド賞など多数の賞を受賞。作曲コンクールのプロデュース、東京オペラシティ顧問、映画音楽の作曲、執筆活動等、多才な活動を行う。享年64歳。

ファランギス・ヌルラ・コージャ Farangis Nurulla-Khoja

ファランギス・ヌルラ・コージャは母国ドゥシャンベのZiyodullo Shahidi音楽専門学校で勉強して、1991年にMirso Tursun-Zadee 芸術インスティテュートに入る。しかしソ連の突然の解体に続き、タジキスタンの内戦状態を避けて、彼女はオックスフォード大学のピトリグヴァー博物館に移る。その後スウェーデンに移住し、イエテボリ大学芸術専攻に入学して1999年に卒業する。現在、彼女は米国サンディエゴ大学大学院ならびにバリエル・カムの学生である。彼女の作品はドゥシャンベ(タジキスタン)、イエテボリ、ストックホルム(スウェーデン)、ミュンヘン(ドイツ)、トールーズ、ロワイヨモン(フランス)、およびサンディエゴ(米国)等のコンサートで演奏されている。彼女は、オーストリア・ザルツブルクのア・ガザリファウンデーション賞の第2位になる。この間パリ、ロワイヨモン(フランス)、ブリュッセル(ベルギー)ドメイン・フォー・ジョ(カナダ)のマスタークラスを受講する。

International Ensemble Modern Academy Concert インターナショナル・アンサンブル・モデルン・アカデミー・コンサート

- 日時 2005年7月15日[金]19:00開演[18:30開場]
- 会場 東京文化会館小ホール
- 料金 全席自由3000円
- 演奏予定作曲家 ライヒ・ラッペンマン・リゲティ・若手作曲家の作品[EMA受講生] 他
- 演奏 アンサンブル・モデルン+EMA受講生

関連レクチャー:「瀧口修造とタケミヤ画廊を通してみる美術の未来」

- 午後2時~5時 参加費1回お1人様:1000円
- 第1回6月18日(土)「瀧口修造、タケミヤ画廊を通して見る未来」
- 第2回6月25日(土)「芸術をめぐる環境の未来に向けて瀧口修造とアーカイブ」
- 第3回7月2日(土)「封印された星」の旅-瀧口修造の戦後

On Site Labo music vol.03

住所・氏名・電話番号を明記の上、FAXまたはe-mailにてトーキョーワンダーサイトまでお申し込みください。

| | |
|----------------|-----|
| フリガナ お名前 | 職業 |
| ご住所 | |
| 電話 | FAX |
| E-mail アドレス | |

お客様から個人情報をご提供していただく場合、その情報は、お客様からのお問い合わせおよびご要望に対して回答または対応の目的、または個人情報をご提供していただく際に予め明示する目的のみに利用します。お客様の個人情報をこれら正当な目的以外に無断で利用することはありません。詳細は当館HPをご参照ください。http://www.tokyo-ws.org/

TOkyo WOnDER SITE

トーキョーワンダーサイト

〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-16
2-4-16 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan
TEL:03-56890533/FAX:03-5689-7501
http://www.tokyo-ws.org e-mail:info@tokyo-ws.org